

活動地域：中京区、東山区、上京区 活動時期：平成30年4月～11月



発表団体：京都女子大学 生活デザイン研究所
伝統をつなぐ会

連携メンバー：綴織技術保存会 奏絲綴苑
山元染工場、株式会社マドレー

活動の目的

京都の地場産業である染織産業の活性化に貢献することを目的として、京都女子大学の学生が中心となり、伝統染織産業の様々な職人の方と手を取り合い、伝統産業を楽しみながら知ることができる仕掛けづくりを行い、人の輪をつなぐネットワークの確立を目指す。

活動の様子

染・織 ものづくり巡りワークショップ

3種の伝統染織の作品づくりを回遊できるワークショップを企画開催。
学生らが各グループの担当となりガイド役をおこなった。

イベントの実施内容

【染・織 ものづくり巡りワークショップ】

日程：2018年11月11日（日）

1部 13:00～14:30、2部 15:00～16:30

場所：日進月歩 CULTURE LAB (株式会社マドレー)

内容：ミニチュア糸巻きのチャームづくり / 型染のトートバッグづくり /
マドレー染のハンカチづくり (3種の体験を30分毎に回遊)

参加人数：各部9名計18名 活動学生：18名



ワークショップ広報チラシを制作



ワークショップ当日の様子

綴織《ミニチュア糸巻きのチャームづくり》

連携先工房：綴織技術保存会 奏絲綴苑

型友禪《型染のトートバッグづくり》

連携先工房：山元染工場

マドレー染《マドレー染のハンカチづくり》

連携先工房：株式会社マドレー

事前活動としての工房見学



気の遠くなるような緻密で繊細な作業に感動。綴織が高級品という理由にも納得の学生達。



型友禪の染め場では、舞台衣装に使用する布地やオリジナル商品の染色がおこなわれている。



実演を拝見してコツを教えていただき、みんなでマドレー染体験。

お気に入りの色を選んで作ったミニチュアの糸巻きは、ペンダントトップとしても楽しめます。参加者たちは、美しい絹糸を手にしたことで、糸巻き経験の次は、いつか実際に機織りをしてみたいという思いを掻き立てられました。



○△□の型と、3種類の染料で模様を創作。キャンバス地に指で染料を塗る作業は、遊び心をくすぐる楽しさがあり、自然にできるズレやカスレが魅力的な模様になりました。



出来上がった生地は、メンバーが流れ作業で乾燥、縫製、アイロン仕上げ。その場でお持ち帰りのシステムはお客様に大変好評でした。

マドレー日比野氏の指導で、模様の描き方を学んだ後に、好みの色でピーコック柄に挑戦。柄が描けたらすぐに、蒸、水洗い、アイロン仕上げでお気に入りのハンカチができました。



仕上がったハンカチはフロアに並べて、参加者全員で講評をおこないました。

本事業は、「伝統をつなぐ会」（事務局：青木研究室）と「生活デザイン研究所」が中心になっておこなわれました。「伝統をつなぐ会」では、京都女子大学の学生が主体となって、京都に続く伝統的な染織産業の魅力を広く伝えるための商品提案やイベント企画をおこなっています。